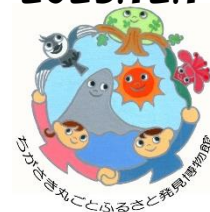


2023.12.1



愛称は「ちがさき丸ごと博物館」

ちがさき丸ごと博物館は今年で20年！

## 「ちがさき丸ごと博物館の歩み」



2023年10月20日 丸博メンバーから佐藤光丸博名誉館長（茅ヶ崎市長）に丸博事業20周年を御報告！

後列左から竹内教育長、平松、村上教育推進部長、伊勢田丸博館長（社会教育課長）  
前列中央に佐藤丸博名誉館長、左から加藤、森井、藤田、有村、原。 敬称略

### 丸博20周年に寄せて ～佐藤光・丸博名誉館長からのメッセージ～

ちがさき丸ごとふるさと発見博物館（以下、丸博）は、市の全域を建物のない博物館と見立てて文化・歴史・自然・産業等を学び、相互に関連づけて活用を図ることでまち全体の活性化につながる活動を、市民の皆様と市が協働して取り組んできました。その結果、「茅ヶ崎を知ること＝茅ヶ崎が好き」になり、自らが住むまちを誇りに思える人が増えたことと思います。例えば、丸博で学んだ多くの市民の皆様による企画展をきっかけとして、より多くの方々に丸博事業に関わっていただいていることは本事業の大きな成果の1つです。

しかし、2021年以降、新型コロナウイルス感染症拡大という大きな災禍に見舞われ、市の事業だけでなく市民活動も自粛・休止せざるを得ない状況に陥りました。そのような中、丸博講座（基礎編）や季刊誌の復刊等、丸博事業を継続してきました。

今年は事業がスタートしてから20周年を迎える年でもあります。丸博に関わってこられたメンバーをはじめ、多くの方々のこれまでの活動に敬意を表するとともに、丸博名誉館長として、一人でも多くの市民の皆様が「住んでよかった」、「住み続けたい」と思うことができるよう、茅ヶ崎を知って、茅ヶ崎が好きになる丸博事業を応援してまいります。

# 季刊誌から振り返る ちがさき丸ごとふるさと 発見博物館事業の歩み

ちがさき丸ごとふるさと発見博物館（丸博）事業検討委員会が組織されてから、今年が20年目の節目の年です。

ここで、季刊誌「ふるさと発見 ちがさき丸ごと博物館」の記載事項などから、丸博事業を振り返り、どのような事業を行い、どのような発展をしたのかを記録に残すことで、これからの礎とします。

- 2004年 丸博事業検討委員会が文化・歴史・自然・産業等の都市資源\*の専門家や公募市民によって構成される
- 2005年 シンボルマーク決定…①、ガイド養成講座（第1期）開講（～2007年）
- 2006年 「ちがさき丸ごとふるさと発見博物館事業の指針」策定
- 2008年 ちがさき丸ごとふるさと発見博物館の会発足
- 2009年 季刊誌創刊…②、秋の芹沢散策、西久保の正月飾り
- 2010年 高砂緑地の桜、浜降祭の神事、里山の秋、元旦の茅ヶ崎漁港
- 2011年 世界を翔けた女・川上貞奴…③、七堂伽藍跡、鶴嶺八幡宮の歴史
- 2012年 初の企画展「つながるちがさき」開催…④、下寺尾遺跡群…⑤  
丸博アクションプロジェクト始動…⑥
- 2013年 春の花を探して、浜降祭…⑦、ゆかりの画伯たち、郷土食、「ちがさき丸ごと博物館基礎講座」がスタート（以降、定例開催）
- 2014年 文人・城山三郎が愛した茅ヶ崎、イサム・ノグチとその周辺
- 2015年 イギリス・ニューカッスル大学の博物館学研究者のジェラルド・コルサーン氏が視察…⑧、企画展「丸ごと100」
- 2016年 ちがさき丸ごとふるさと発見博物館友会の会発足、MaruhakuTVスタート、企画展「丸ごと101」…⑨
- 2017年 都市資源（姉妹都市・開高健記念館・里山公園・民俗資料館）
- 2018年 企画展「お届けエコミュージアム！ 松丸丸ごとふるさと発見博物館」…⑩
- 2019年 企画展「お届けエコミュージアム！ Vol. 2 南湖 ザ ミュージアム」
- 2020年 企画展「つながるちがさき2020」…⑪
- 2021年 企画展「お届けエコミュージアム！ おうちで「丸ごと博物館」」をインターネットで開催
- 2022年 新型コロナの影響で開催を見送っていた基礎講座を再開、季刊誌復刊…⑫

**2023年12月 丸博誕生20周年！**



①市民公募で選ばれたシンボルマーク。丸博設置の案内柱や説明板などのサインや都市資源を生かした事業のポスター等に使用…2005年

②創刊当初は茅ヶ崎の自然や歴史・民俗を中心に年4回のペースで発行してきました。数年後は企画展のPRを展開していきます。※創刊号…2009年



⑥キックオフ会議の様子。※季刊誌No.12…2012年

⑧服部前市長に表敬訪問。※季刊誌No.23…2015年



④初の企画展での基調講演。茅ヶ崎全域を屋根も壁もない博物館（エコミュージアム）として捉えています。※季刊誌No.14…2012年



③⑤⑦茅ヶ崎ゆかりの人・歴史・祭りを取り上げました。※季刊誌No.8・12・16…2011・2012・2013年

平成28年度ちがさき丸ごと博物館企画展は、「丸ごと101-茅ヶ崎を知る101の機会-展」！

会期：平成28年11月25日（金）～平成29年3月5日（日）＜全101日展＞  
会場：茅ヶ崎市庁舎

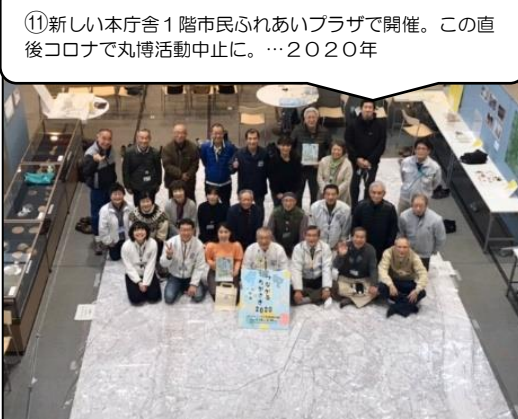


—ジウム企画展の集大成をみんなでたのしもう

⑨あなたの都市資源は？※季刊誌No.29…2016年



⑩松林公民館ロビーでは高さ約3.5mのロゴマークのオブジェを展示。※季刊誌No.35…2018年



⑪新しい本庁舎1階市民ふれあいプラザで開催。この直後コロナで丸博活動中止に。…2020年



⑫復刊しました！※季刊誌No.36…2022年

\*都市資源：「ちがさき丸ごとふるさと発見博物館事業の指針」で、文化、歴史、自然、産業、商業、公共施設、人材等を幅広く抽出したものを都市資源と呼ぶこととしました。

# 丸博の20年、そしてこれから

平成16（2004）年に丸博事業の検討が始まってから20年の間、多くの市民の皆様が学び、つながることで多彩な都市資源の掘り起こし、保存、活用が進められ、茅ヶ崎の魅力を発見、発信しているこの活動が社会教育として継続されていることを、誇りに思います。

この20年の歩みを振り返り、これからも皆様とともに、新たな発見を目指すことを楽しみにしています。

ちがさき丸ごとふるさと発見博物館館長  
（社会教育課長）伊勢田珠代

## ちがさき丸ごとふるさと発見博物館事業の目的・働き・取り組み・施策

目的	働き	取り組み	施策
①生涯学習でまちづくり ②文化が身近にあるまちづくり ③仲間が増やせるまちづくり	(1) 都市資源に関する調査・研究・保存・展示などを行う働き	(1) 都市資源を活かすための運営システムを確立します。	事業を推進する25の施策
		(2) 都市資源を調査し、研究し、保存し、展示します。	
	(2) 都市資源に関する情報を収集し、活用方法を提供し、教育や産業の活性化に活かす働き	(3) 都市資源を関連づけた学習・見学コースを作ります。	
		(4) 都市資源に関する情報を収集し、提供します。	
		(5) 学校教育の求めに応じ、小学校や中学校などと連携します。	
	(3) 地域の人材（知識や技術）を活用・支援する働き	(6) ちがさき丸ごとふるさと発見博物館事業の仲間を増やします。	
	(4) 世代を超えた市民の交流の場を設ける働き	(7) 都市資源を活かした交流を行います。	

（「ちがさき丸ごとふるさと発見博物館事業の指針」P12を参考に作成）

## アクションプロジェクト運営部会メンバーからの丸博活動への想い

「ちがさき丸ごとふるさと発見博物館事業」がスタートしてから20周年を迎えました！

これまで、順風満帆とはいかずに幾多の紆余曲折を経てきましたが、こうして20年間活動を継続できたことを、市民ボランティアとして運営に携わってきた私たちも大変嬉しく思います。

この事業は、都市資源を活用して地元の人々のふるさと意識を醸成する「エコミュージアム」という概念を、田園地域ではなく、首都圏のベッドタウンとしての性格を持つ茅ヶ崎という「都市」に導入している、国内においても大変珍しい先駆的な試みだと考えています。20年前、この「都市型エコミュージアム」への挑戦を思い切って採用された、茅ヶ崎当局の方々の「先見の明」は流石だと敬服いたします。

茅ヶ崎は、先祖代々から在住されている方々をはじめ、別荘文化隆盛期や戦後復興から高度成長期に移られて来た方々、また、近年の「湘南」ブームに誘（いざな）われてこられた方々など、住まう人々の背景が多種多様な街です。そして、それぞれの方々がそれぞれの想いで「茅ヶ崎大好き！」を表現した多彩な市民活動が活発に繰り広げられている街だと思います（我々もそれぞれの想いと背景を持って、丸博活動に参加しています）。

また、そうした茅ヶ崎愛の息吹に触れながら、この土地で生まれ育ち、この街を「ふるさと」とする子どもたちが益々増えていきます。

この丸博活動は、そのような市民の皆さんを緩やかにつなぎ、お互いが知り合うことにより、自身が住まう土地への愛着心＝「ふるさと意識」の萌芽を下支えする事だと思っています。



この活動においては、市民の皆さん一人一人が主役であり、当博物館における貴重な「学芸員」さんです。いま日本は、少子高齢、地域コミュニティの希薄、経済的格差の拡大、人生100年時代のシニアライフの過ごし方…など、さまざまな課題に直面しています。私たちは、その問題解決の糸口に市民の方々の「ふるさと意識醸成」が潜在的な可能性を秘めていると信じています。

これからも試行錯誤を繰り返しながら、活動の展開を図っていきますので、皆さまのご協力・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

ちがさき丸ごとふるさと発見博物館アクションプロジェクト 運営部会メンバー一同

